

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

使用時期	型名	Tube-番号	使用回路
1939 (S14) 年	UZ-6302	-28	第一検波、映像増幅
1939 (S14) 年	UZ-6303	-29	高周波増幅、中間周波増幅
1939 (S14) 年	UY-37	-30	局部発振
1939 (S14) 年	Kt-6H6A	-31	映像検波、同期分離
1939 (S14) 年	UZ-89	-32	映像増幅 (UZ-6302 互換)
1939 (S14) 年	UY-38	-33	同期増幅
1939 (S14) 年	UY-36	-34	線周波偏向、枠周波偏向
1939 (S14) 年	UZ-42	-35	線周波・枠周波偏向出力 音声出力
1939 (S14) 年	UY-76	-36	ダンパー
1939 (S14) 年	UZ-6D6	-37	音声中間周波増幅
1939 (S14) 年	UZ-85	-38	音声検波、低周波増幅

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

Tube- 28:

UZ-6302



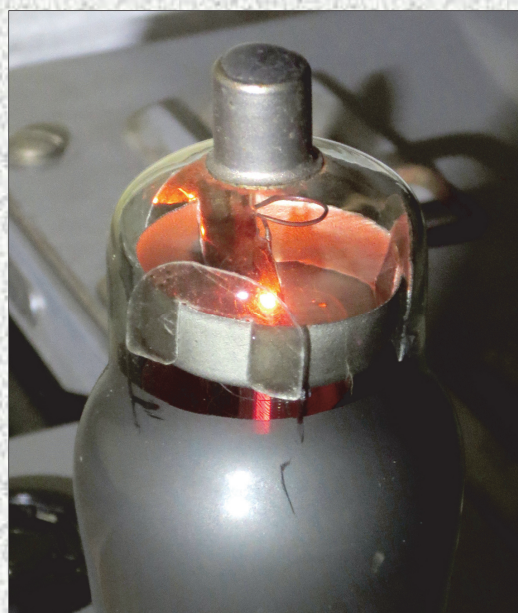
サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	第一検波、映像増幅	Ef [V] × If [mA]	6.3×600

特徴：テレビジョン増幅用広帯域5極管、1939 (S14) 年に $G_m=10,000 \mu \text{ mho}$ の高周波増幅管を製品化した。これは、当時の受信管で世界一相互コンダクタンスの高い五極管であった。

経緯：東京電気で1939(S14)年に製作した。(受信用真空管一覧、愛知懸立工業専門学校教官、市岡太郎、1947,S22) (岡部豊比古、真空管研究の思い出、電子通信学会誌、1978.10)



一部拡大

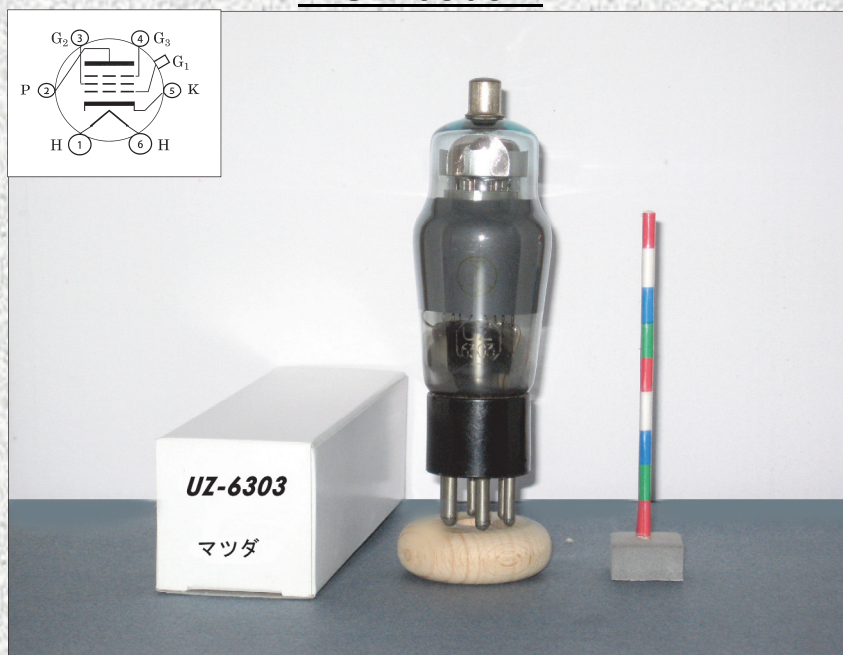


通電状態

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

Tube- 29:

UZ-6303



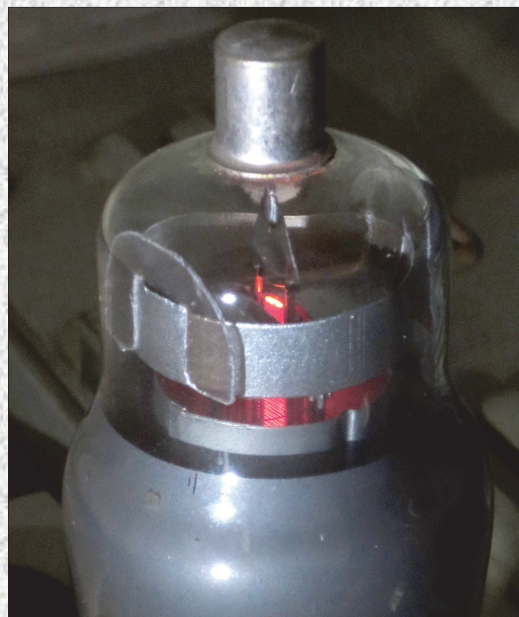
サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	高周波増幅、中間周波増幅	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×600

特徴：テレビジョン可変増幅率5極管、プレート電圧=250V,プレート電流=12mA,
 $G_m=6,000 \mu \text{ mho}$

経緯：(受信用真空管一覧、愛知懸立工業専門学校教官、市岡太郎、1947,S22)



一部拡大

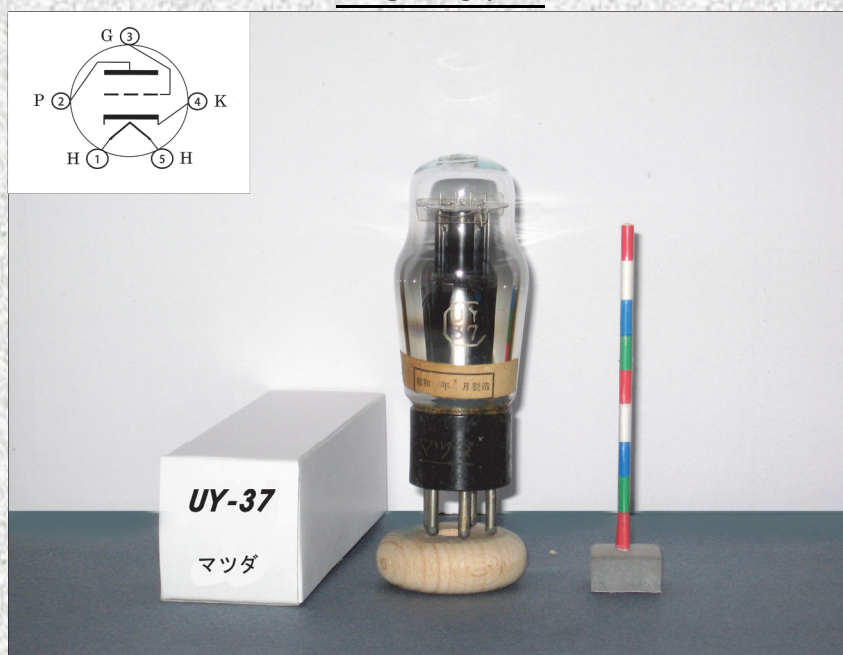


通電状態

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

Tube- 30:

UY-37



サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	局部発振	Ef [V] × If [mA]	6.3×300

特徴：検波・増幅・発振用傍熱型3極管、プレート電圧=250V, $\mu = 9.2$, $G_m = 1,100 \mu \text{ mho}$

経緯：UY-237改良型、(ラジオ受信用マツダ真空管,販売店用,1935(S10)頃)



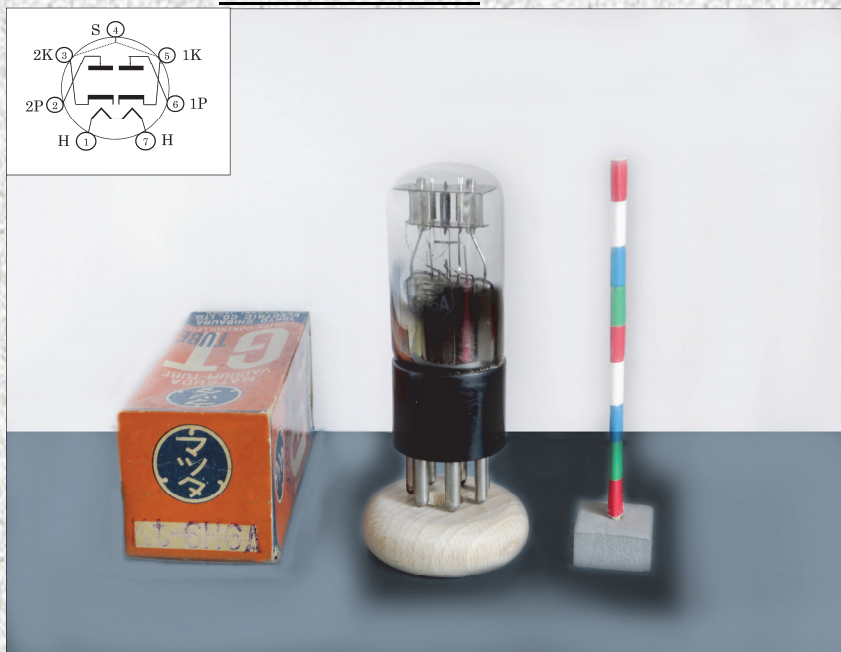
一部拡大



通電状態

Tube- 31:

Kt-6H6A



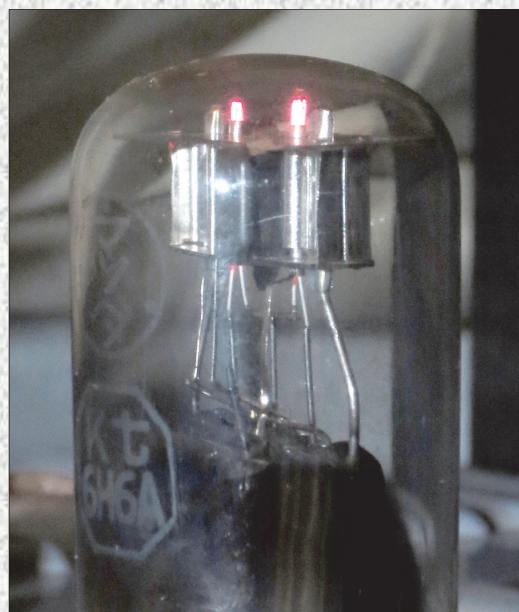
サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	T管(Utベース)
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	映像検波、同期分離	Ef〔V〕× If〔mA〕	6.3×300

特徴：検波用双2極管、ピークプレート耐逆電圧=310V（最大）,電流=24mA

経緯：（全日本真空管マニュアル,1959）



一部拡大

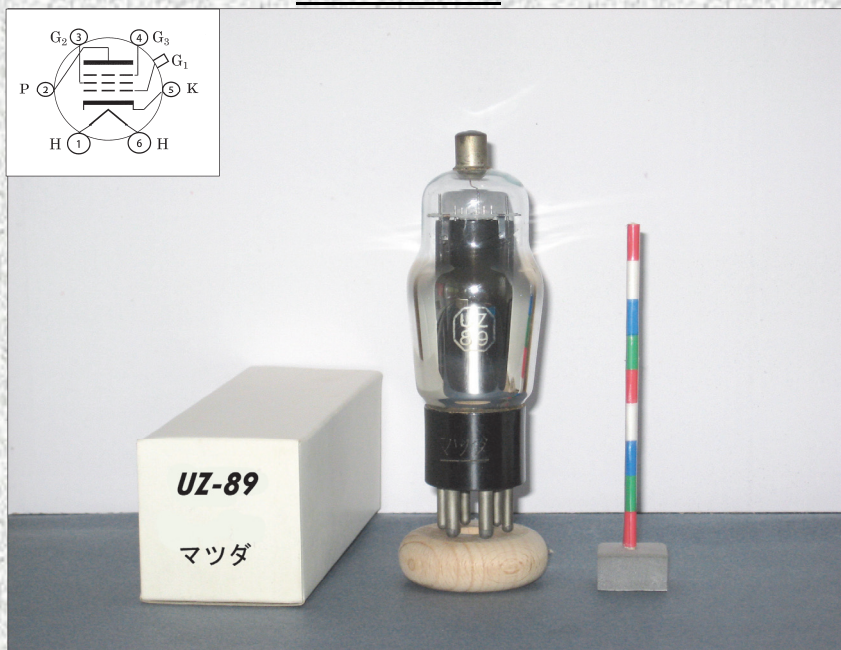


通電状態

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

Tube- 32:

UZ-89



サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	ST管
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	映像増幅（6302互換）	Ef [V] × If [mA]	6.3×400

特徴：電力増幅用、出力=3.4W（5極接続）0.9W（3極接続）, $\mu=125$, $G_m=1,800 \mu \text{ mho}$

経緯：1934(S9)年発売、（標準ラヂオ大辞典,社.日本ラヂオ協会,1935）



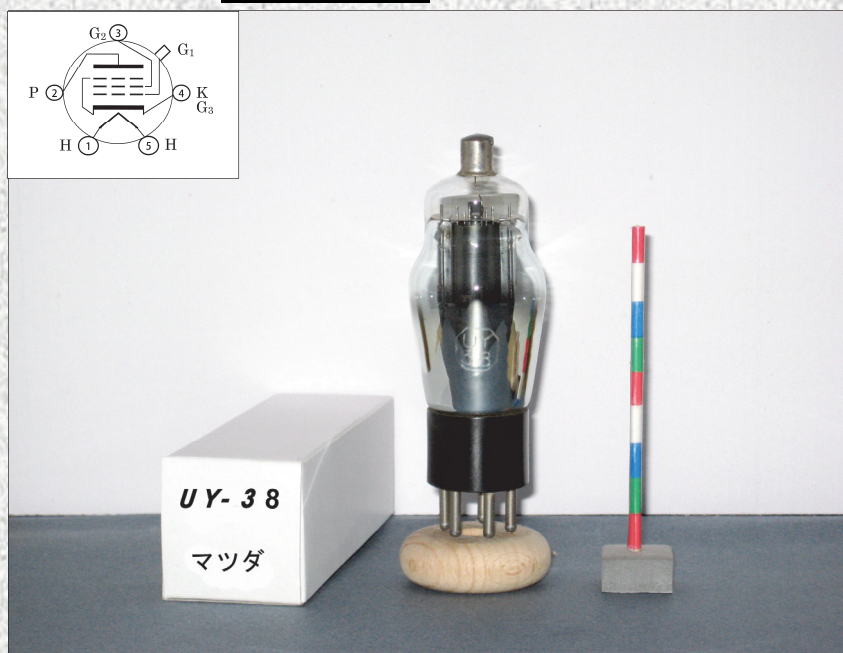
一部拡大



通電状態

Tube- 33:

UY-38



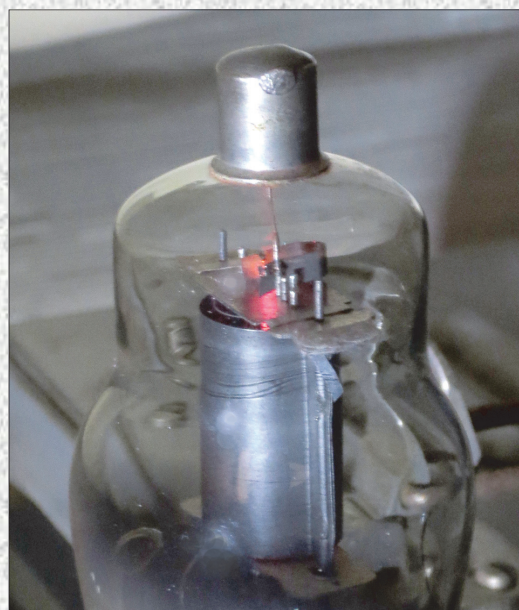
サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	同期増幅	Ef [V] × If [mA]	6.3×300

特徴：電力増幅用傍熱型5極管、プレート電圧=250V、 $\mu=120$ 、 $G_m=1,200 \mu \text{ mho}$ 、出力=2.5W

経緯：(ラジオ受信用マツダ真空管,販売店用,1935(S10)頃)



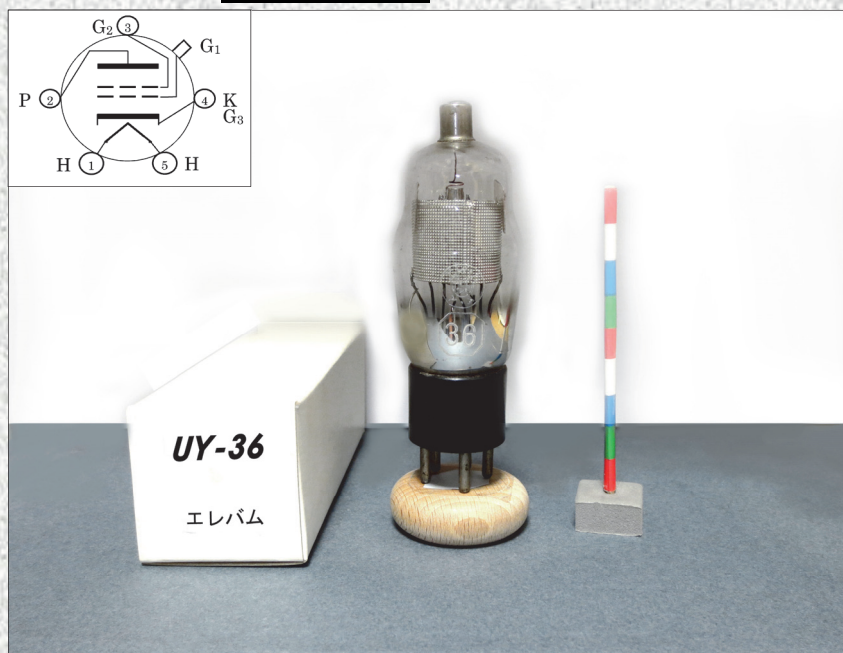
一部拡大



通電状態

Tube- 34:

UY-36



サンプル・メーカー	宮田製作所 (ELEVAM)		外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14)	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機	
使用回路	線周波偏向、枠周波偏向	Ef [V] × If [mA]	6.3×300	

特徴：高周波増幅・検波用遮蔽グリッド4極管、プレート電圧=250V, $\mu=595$, $G_m=1,080 \mu \text{ mho}$

経緯：トランスレスラジオ用に **KX-25Z5** と組み合わせるため開発されたシリーズ

UY-236 の改良型、エレバムより 1934(S9) 年に発売。(ラジオ受信用マツダ真空管, 販売店用, 1935(S10)頃)



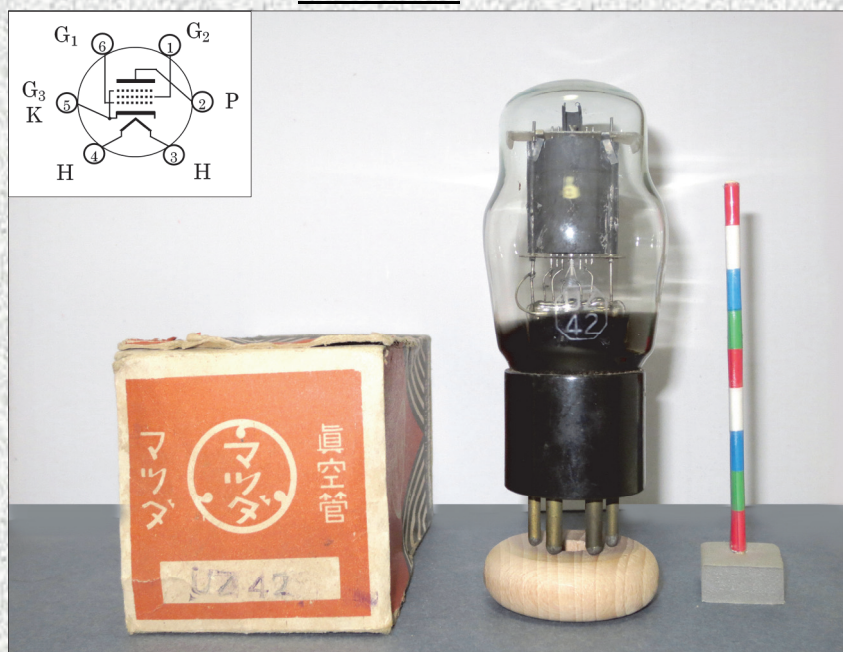
一部拡大



通電状態

Tube- 35:

UZ-42



サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	ST-45
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	線周波・枠周波偏向出力、 音声出力	Ef [V] × If [mA]	6.3×700

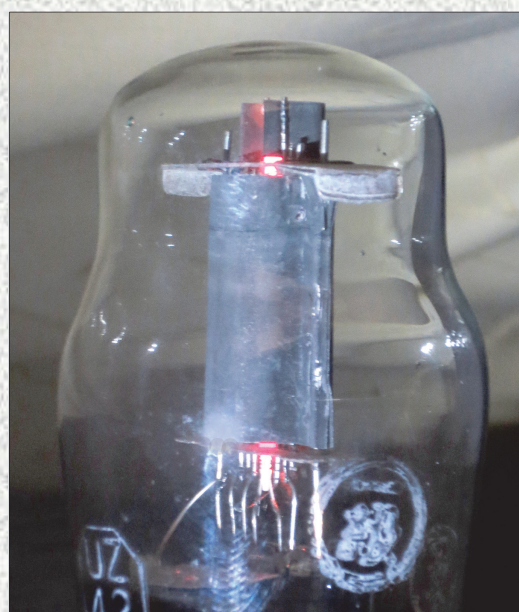
特徴：電力増幅用、プレート電圧=250V,プレート電流=34.0mA,出力=3.0W, $\mu=220$, $G_m=2,200 \mu mho$

経緯：UZ-2A5同等、日本独自の命名による。東京電気より1934(S9)年に発売、1956(S31)年12月からRETMA式に準拠し「42」となる。

（標準ラジオ大辞典,社.日本ラジオ協会,1935）、（ラジオ受信用マツダ真空管,販売店用,1935(S10)頃）



一部拡大



通電状態

Tube- 36:

UY-76



サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST-38
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	局部発振,水平発振	Ef [V] × If [mA]	6.3×300

特徴：検波・発振・増幅用傍熱型三極管、 $G_m=1,450 \mu \text{ mho}$, G-P間静電容量=2.8pF

経緯：東京電気から1935(S10)年に発売された。日本独自の命名による。1956(S31)年12月からRETMA式に準拠し「76」となる。(NECニュース,第8号,1952,S27年)、
(マツダ真空管ハンドブック,1953)



一部拡大



通電状態

Tube- 37:

UZ-6D6



サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST38-1
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	音声中間周波増幅	Ef [V] × If [mA]	6.3×300

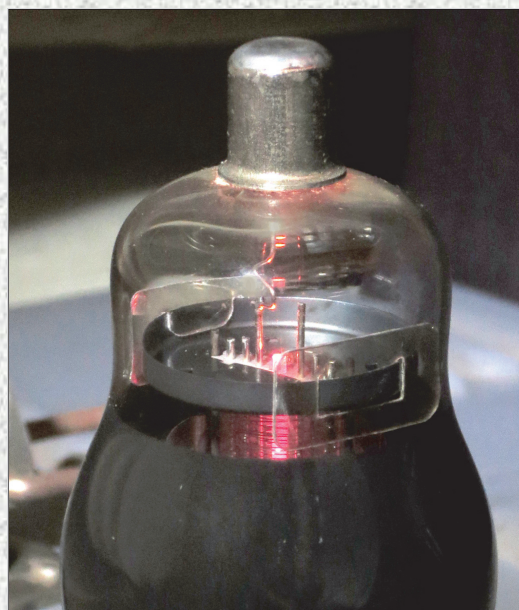
特徴：高周波可変増幅用5極管、高周波・中間周波増幅用、プレート損失=2.25W, Gm=1,500 μ mho

経緯：東京電気から1936(S11)年に発売。日本独自の命名

(NECニュース,第8号,1952年)、(マツダ真空管ハンドブック,1953)



一部拡大



通電状態

2.6 テレビジョン暫定標準方式による実験放送受信機

Tube- 38:

UZ-85



サンプル・メーカー	東京電気 (マツダ)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	暫定方式実験放送受信機
使用回路	音声検波、低周波増幅	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×300

特徴：検波・増幅用双2極3極管、プレート電圧=250V,プレート電流=8.0mA,出力=0.35W,
 $\mu = 8.3, G_m = 750 \mu \text{ mho} (E_b = 135V), 1,100 \mu \text{ mho} (E_b = 250V)$

経緯：UZ-55同等、東京電気より1934(S9)年に発売、日本独自の命名、(標準ラヂオ大辞典,社.日本ラヂオ協会,1935)



一部拡大



通電状態